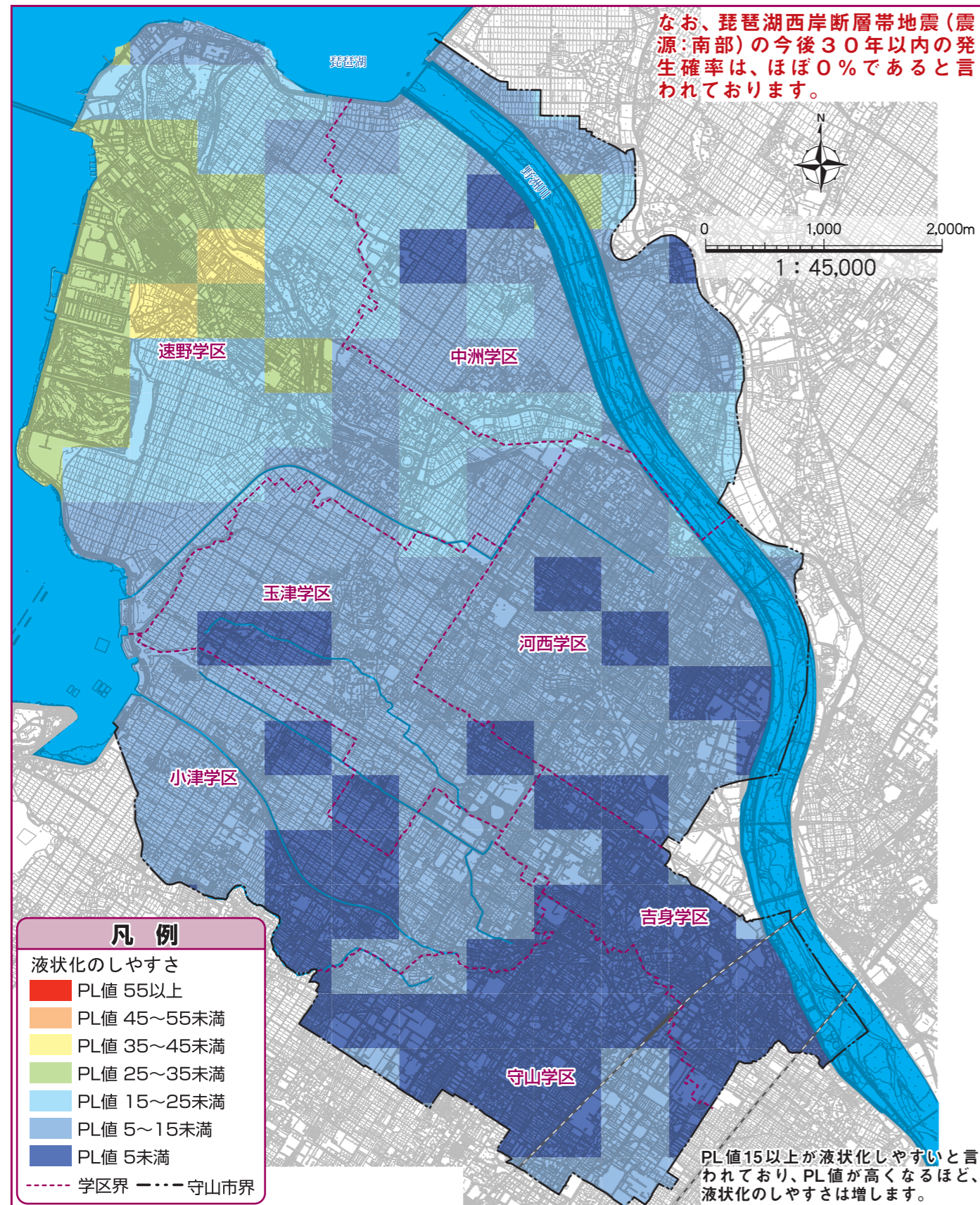


2-11.液状化のしやすさマップ(震度6弱・活断層地震)

このマップは、琵琶湖西岸断層帯地震のような活断層地震により、震度6弱(通常数十秒程度の揺れ)の地震が、市内のどの地点においても発生したことを仮定し、地域の液状化指数を表したものです。

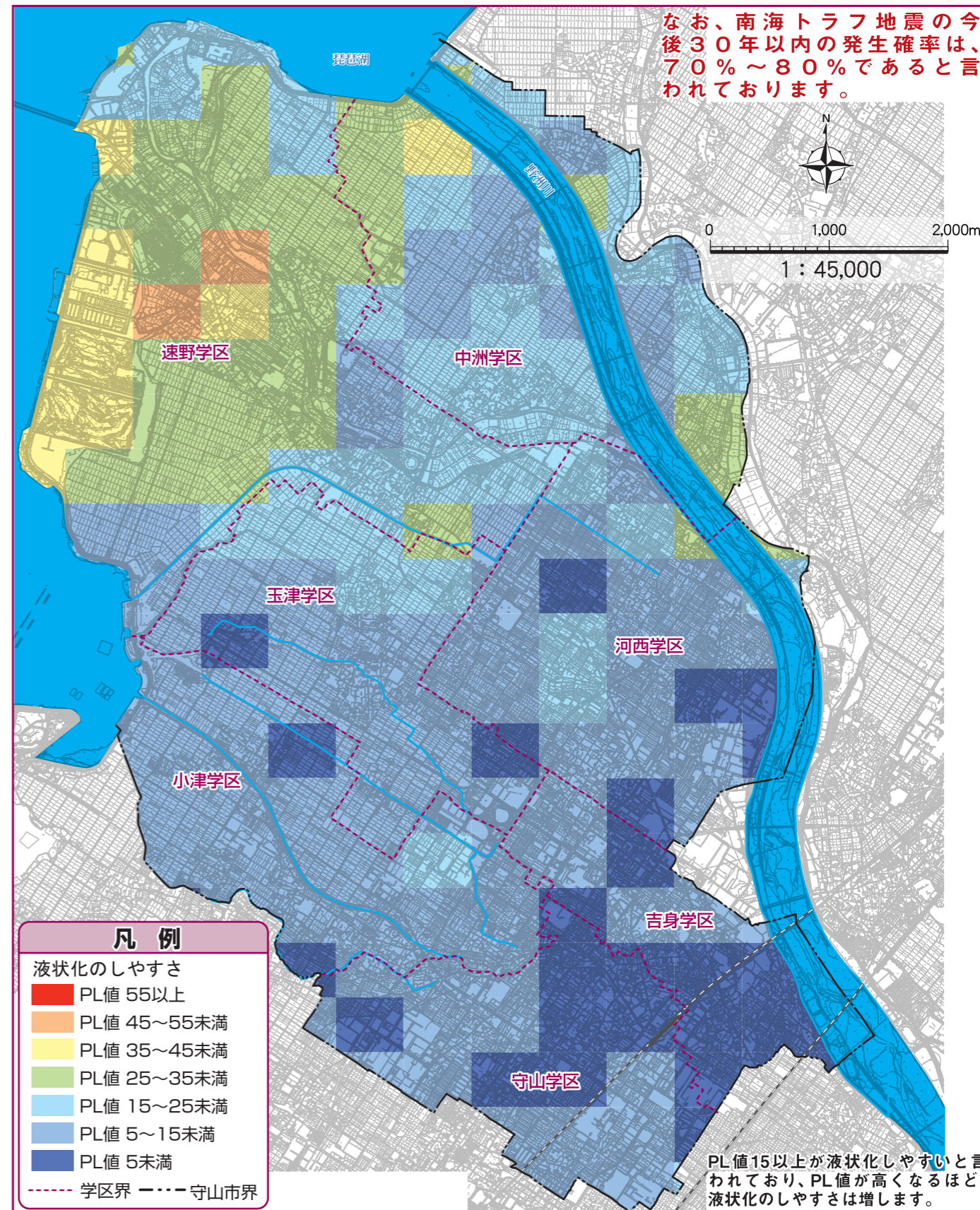
なお、琵琶湖西岸断層帯地震(震源:南部)の今後30年以内の発生確率は、ほぼ0%であるとされています。



2-12.液状化のしやすさマップ(震度6弱・海溝型地震)

このマップは、南海トラフ地震のような海溝型地震により、震度6弱(2~3分程度の揺れ)の地震が、市内のどの地点においても発生したことを仮定し、地域の液状化指数を表したものです。

なお、南海トラフ地震の今後30年以内の発生確率は、70%~80%であるとされています。



留意事項 ※液状化のしやすさは、ボーリング調査(地質調査)結果を基に液状化のしやすさを求めるPL値を用いて判定し、500mメッシュ単位で表現しています。
※液状化対策は考慮していません。

※メッシュの着色は、現時点で入手可能な過去のボーリング調査結果から求めたPL値を平均したものです。また、ボーリング調査結果がないメッシュは、メッシュの大きさを広げ、近傍のボーリング調査結果から平均値を求めています。そのため、メッシュ内には液状化が起こりにくい地盤が含まれている場合があります。
※お住まいの場所の液状化対策を考える際は、現地での地質調査を行い、詳細な分析をした上で、対策を行うことが望めます。

地震編

水害編

原子力災害編

共通編

地震編

水害編

原子力災害編

共通編